

JIA NAGANO-KEN CLUB

JIA 長野県クラブ

(社)日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/jia-naga@jeans.ocn.ne.jp>

Vol.83

2009

09.30



夏の恒例行事 会員集会



まち並みウォッチング in 木曾福島



上田情報ビジネス専門学校雑学講座

「チェンジ」はやってくるか

山口 康憲

過日行われた総選挙において、1955年以降で初の本格的な政権交代が行われ民主党政権が誕生しました。民主党は政権公約であるマニュフェストや政策集「INDEX2009」で“建築関連法令の抜本的改正”を打ち出していましたがご存知でしょうか？内容は主に次の4点です。①基準法を単体規定に特化し、都市計画法は地方分権を前提として「まちづくり法」に再編、②住宅関連の資格・許認可の整理・簡素化、関連組織の整理・縮小、③住宅政策に必要な予算を地方自治体に一括交付、④情報公開と市民参加による地域主導型のまちづくりのシステムの構築。

「耐震擬装事件」の発生から4年が経ち、建築基準法・建築士法の改正をはじめ新たな関連法令も生まれ、官主導の大改革もここに来てやっと落ち着いたかに見えますが、その中でJIAの主張はどの程度叶えられたと見るべきなのでしょうか。

そもそも、姉歯事件とは単にルール破りのモラルの欠片も無いふとどき者の問題であり、構造技術者を養成して来なかった審査システムの欠陥の問題であった筈です。「確認と検査制度」で建築の安全性を100%担保することなどできないにも関わらず、法律を厳格化して安全性を高めたかのように見せているのは責任逃れの方便でしかありません。わが国独特の建築生産システムの多くで下位に置かれている設計者だけに責任を被せても、消費者・

発注者の遵法意識が向上しない限り違法行為はなくならないし、消費者保護の美名を謳った法令も、生産システムに関わる全ての人間が責任を取りたくないという“閉鎖制度”と化した現状では、一番の被害者は消費者であるということにもなりかねません。

JIAは今年度「建築家資格の明確化」を活動方針の柱としています。また、2年後に迫ったUIA大会2011東京のテーマは「環境」ですが、JIAの悲願であったUIA大会の招致の最大の目的はわが国における「建築家の職能の確立」にあったはずです。伊平支部長の言葉を借りると、資格制度を確実にして専門家の能力・倫理を高め、責任を明確に厳しくし、権限を与え、確認は簡素化する。その為に関連団体が一体となって、“業務改善”、“資格制度の確立”、“建築基本法の制定”を目指すということです。

現在の我々のためでなく、将来のJIA会員のために、建築を目指す若者に希望を与えられる制度の確立こそが最も有効な消費者保護にも繋がると信じます。今回の政権交代という、最初で最後であるかもしれない千歳一隅のチャンスを生かすべく、JIAはこれから2年間一丸となって活動し、晴れやかな気持ちでUIA大会を迎えるものです。

UIA大会への参加はJIA会員の義務であると確信する所以です。

夏の恒例行事「会員集会」に参加して

小宮山 吉登

7月25日、崖の湯温泉「茜宿」において夏の恒例行事「会員集会」が行われました。長野県建築士事務所協会新井会長、JIA神奈川地域会森岡代表を講師としてお招きし、「どうなる、私の業務環境?」と題して、耐震偽装事件以後、幾重にも建築基準法、建築士法が改正され、建築設計・監理を糧としている者を取り巻く社会環境が変化し、それらにどのように向き合い対応していくべきか、貴重な講演と活発なディスカッションが繰り広げられました。

事務所協会新井会長より、平成19年6月20日の建基法、建築士法の改正から、本年5月27日に開始された構造・設備一級建築士による適合判定の実施までの法改正の概要と経過、更に、建設省告示1206号に変わる国交省告示15号の内容と、行政機関の対応動向を説明いただきました。

個人的には、建告1206号と言えばお国からの告示であるのに、なぜなのか行政の仕事においてもその報酬基準額に程遠い設計監理料で、「絵に書いた餅」の存在です。それにも関わらず、唯一報酬額を建主に納得いただく拠り所としても利用してきました。しかし、「この告示の報酬基準は指針・目安であって義務ではないこと。告示15号の数値は、事細かな実施項目を全て行って初めて、あの夢のような設計・監理報酬に達すること。」等の説明をお聞きし、今までいかに理解が曖昧で、報酬額の基準数値ばかり一人歩きさせていた事を深く反省しました。

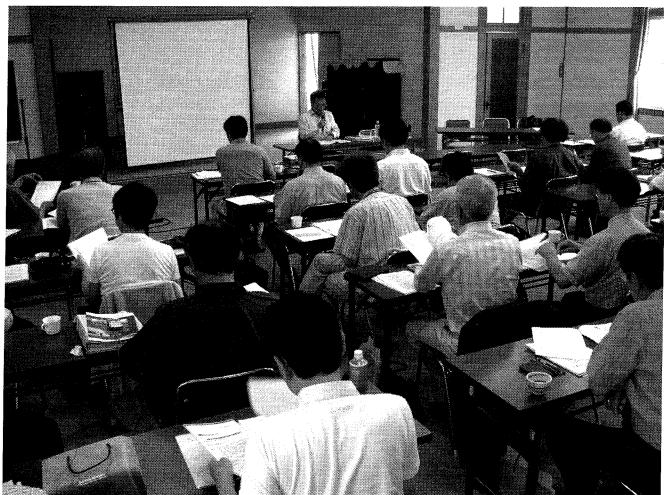
昨年11月28日の建築士法改正により、設計事務所開設者は建築主への「重要事項説明」と「書面交付」が義務付けられ、行わな

い場合の罰則規定まで定められました。耐震偽装事件依頼、建築士は真綿はおろか荒縄で首を絞められるばかりで、またひとつ面倒なことをしなければならないと溜息を吐いていました。しかし、森岡氏の講演とその後のディスカッションは、正に目から鱗の話でした。

建主のため、社会のため、より良い建物と住環境を造ることを使命とし、努力をして来たのですが、それにはどれ程の時間とコストが掛かるのか! どれだけの専門的能力が必要なのか! 建主に対して説明を怠ってきたのです。その結果が現状の低い労働対価なのです。自らの業務のコストデータを整理・分析し、そこから算出された報酬額と実施項目を相手が納得出来るように説明することが、正当な報酬を得る上でも、建主の更なる信頼を獲得する上でも、とても大切だと理解できました。姉歯事件は我々に大変な試練を与えましたが、前向きに捉えれば、自らの姿勢と足跡を省みる機会も与えてくれたのです。

民法上、設計監理契約は「委任契約」であり、信頼関係の上に成り立つプロフェッショナル業務であること。「信州の建築家 愛と情熱の家づくり」の出版は、一般の方に我々の能力とその対価としての報酬をアピールする絶好の機会であること。これらを自覚・認識し、JIA長野県クラブ会員であるとの意義を再確認した集会でもありました。

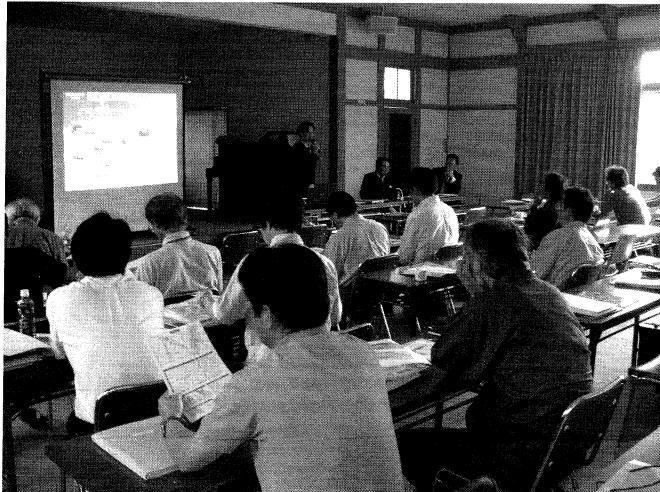
ディスカッションはその後の納涼会へと引き継がれ、卓球大会で一息吐きつつも、二次会、三次会へと深夜に及んだようです。



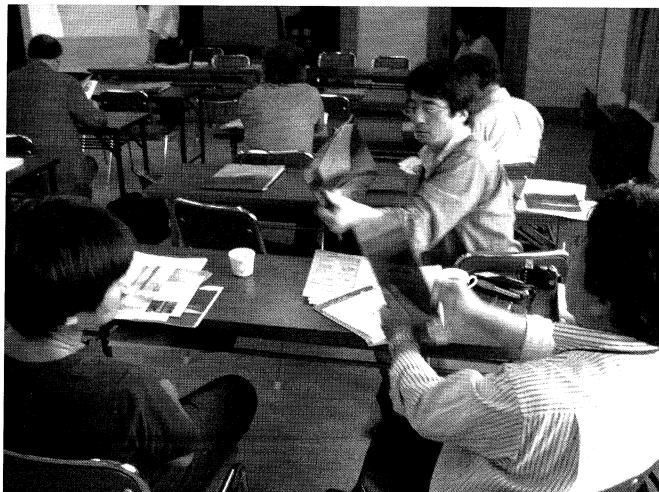
会員集会



会員集会



技術交流会



技術交流会

7月18日に、木曽福島町で行われたまち並みウォッチングに参加しました。午前中の山歩きで、ほど良い疲れが残る中、午後は町の中をゆっくりと歩きました。

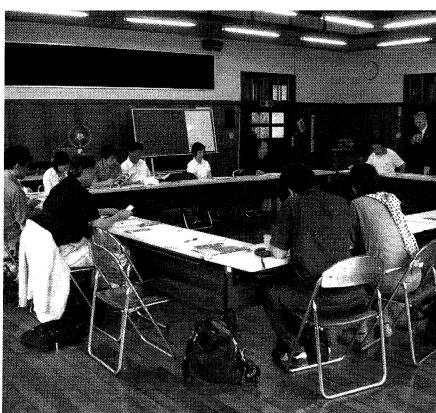
木曽福島は木曽川と中央西線、中山道に挟まれて山と山の間にひっそりと佇む町です。かつて木曽福島には関所があり旅人がここで一夜の宿をとったことで様々な文化が蓄積されました。それが町の各所に独自の彩りとして今も数多く残されています。また山間部である故に生活するには過酷な条件が揃い、高度成長期にとり残された建築や古い商店街が今では町に時のかさなりを生み、心地良いスケール感を保つ道と共に歩いて楽しい町へと進化していました。

木曽福島のまちづくりはハード面としての「親水エリア」「江

戸小路エリア」「道祖神エリア」などの整備と共に「接客おもてなし講習」や「事業計画づくり講習」などソフト面からの取り組みも意欲的に行われているとのことです。継続したまちづくりとしての活動は全国の自治体の中でも注目され軌道にのり前進しつつ機能していると感じられました。

必然的に時代に流されず、かつて庶民の智恵で作られた崖家造りのように素のままの良さを生かした素朴な木曽福島のまちには、まちづくりに行き詰まつ多くの町が失ってしまった財産が沢山残っています。

振り返りながら理路整然とした街にはない人の営みと素朴さをもう一度感じてみたくなりました。近い内に再びゆっくり訪れるようと思っています。



上田情報ビジネス専門学校雑学講座

安藤 政英

8月24日、上田情報ビジネス専門学校にて「ものづくりの楽しさを伝える雑学講座」が行われました。

昨年から川上さん、西沢さんと続いて今回は甘利さんが講師をつとめました。長野県クラブからは赤羽会長、勝山さん、山口さん、清水さんそして私が応援として参加いたしました。

こういった場では普段会合でしか顔を合わさない仲間の皆さん、設計の作法や生き方などが聞けて、私自身もたいへん参考になりました。

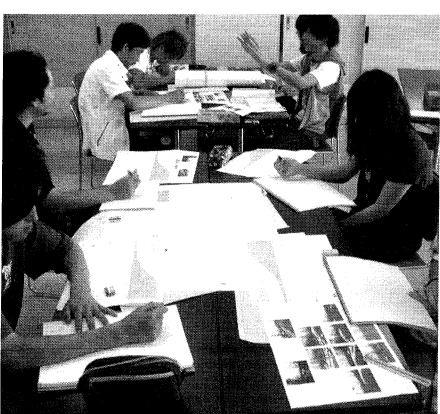
前半は甘利さんが子供のころ野球が大好きで野球選手になりたかったが、あることをきっかけに中学2年の時、建築家になることを決めことや、スライドを使って28歳で独立してからの作品のコンセプトや完成するまでの経緯などをひとつひとつ紹介

してくださいました。

特に、甘利さんが大学へ進まず実戦で現場から仕事を学んでいたこと、安藤忠雄さんと小海町の美術館の設計監理をコラボしたことなどはこういった場でないとなかなか聞けなかつた話でした。

授業の後半は実在の土地に実在のクライアントを設定して設計するというものでした。まだ設計という仕事の入り口に立ったばかりの子供たちにとっては手探りのようなものですが、自由な発想で自由にものづくりを考えられるのは学生である今のうちだけでしょう。

いろんなプランが出てきましたが、学校は豊かな感性を育てるところなので大人の尺度で締め付けないということが大切かなとも思いました。



賛助会だより

技術交流会「進化する板ガラスと工法」

真野ガラス株式会社 吉本 進

この度は、JIA長野県クラブ技術交流会に講師としてお招き頂き、誠にありがとうございました。

日頃より、あまり経験の無い講師という立場でご説明させて頂きました。

ガラスの歴史は古く、紀元前3000年、古代メソポタミアで発見され、中世、近世と進化し、日本に本格的なガラス工業が誕生したのは明治40年になります。それ以来様々な進化を経て、近年は社会的要望により、機能ガラスが大半を占め、地球的にCO₂削減に無くてはならない素材となっております。

このようなガラスの歴史から自由市場化、特約店の低迷、メーカー直販体制の台頭による価格競争の激化、又、国内に無い型板ガラス等の商品説明のお話をさせて頂きました。

しかしながらこの様な環境の中でも、業界を上げ新商品の開発、又、新しい分野への参入へと取り組んでおります。

※ガラス業界の具体的な販売戦略として ①窓の省エネ・リ

フォーム(複層ガラスへの切替) ②スクール・ニューディール構想(全国公立小学校窓ガラス取替)耐震化・エコ化・ICT化の三本柱。

※環境に求められる板ガラスとして、 ①断熱(複層ガラス): 2枚の板ガラスを密封、内部空気を常に乾燥状態に保った断熱性の高いガラス。 ②安全(強化ガラス): 板ガラスの軟化点近くまで過熱後、空気を均一に吹き付け冷却ガラス表面に圧縮層を持たせたガラス(通常のフロートガラスの3~5倍の強度) ③防犯(合わせガラス) 2枚の板ガラスを強靭な接着フィルムで過熱・圧着して張り合わせたガラス万一割れてもガラス破片が飛散脱落しにくい。(防犯性)等々、当社真野ガラスは、ガラス生産から販売へ一貫性を備え、社会に役に立つ企業として頑張っております。

これを機会に末永くお付き合いをさせて頂けますよう、宜しくお願い申し上げます。

技術交流会「省エネルギーと自然エネルギーの活用」長野三菱電機機器販売(株)長野支店 小池 幸信

この度は、「環境」をテーマにした技術交流会で、発表させていただきました。ありがとうございます。

当社は、三菱電機代理店として、空調・昇降機などビル設備などご提案、納入をさせていただいております。

今回は、地球環境問題で注目されている、太陽光発電をご紹介させていただきました。

世界規模で地球温暖化が深刻化している今、CO₂を排出しないクリーンエネルギーとして官民一体で普及をはかっているのが「太陽光発電」です。

太陽光発電普及への支援策として、国の補助金実施や売電の買取価格倍増などが計画されており、住宅用ならび公共・産業用共に需要拡大が見込まれております。

三菱電機は、時代に先駆けるビジョンと技術力でより高性能・高信頼性のシステムを開発しています。

【三菱太陽光発電の特長】

①太陽電池セルからパワーコンディショナまで自社一貫生産。最適なシステムをご提供すると共にアフターサービス体制も万全です。今年度には、飯田市に太陽電池セル第二工場も完成致し、増産体制が可能となります。

②太陽電池モジュールの高出力化・高効率化。セルのプロセス改善により、セル効率アップ!(モジュール出力185Wの大出力)防汚フレームや耐積雪強度アップなども実現しました。パワーコンディショナ電力変換効率、業界No.1。(業界最高97.5%)日射量の少ない朝夕や曇りの日にも電力交換効率をキープしたっぷり発電、よりいっそうの環境貢献(エネルギー消費の削減) & 経済効果(電気料金の削減)を実現します。

当社では、太陽光発電のご提案、見積・設計、施工までサポートさせていただきます。太陽光発電ご導入の計画が御座いましたら、是非ご相談頂けます様お願い申し上げます。

■今後の行事予定

10月1日~4日 JIA京都大会

10月17日 まち並みウォッチングin松本

10月28日~31日 アーキテクツガーデン

12月5日 冬の恒例行事(技術交流会・幹事会等)

12月中旬 上田情報ビジネス専門学校雑学講座

■会員のお知らせ

飯田市21世紀環境共生型モデル整備事業における設計・施工監理に関するプロポーザルにおいて、「新井建築工房+設計同人N E X T 新井優さん」が最優秀者として選定されました。おめでとうございます。なお、次点の優秀者は「H A L 設計室 荒井洋さん」「環境プランニング 木下光さん」でした。

■「信州の建築家とつくる家 第6集」

11月下旬発刊予定で第6集の編集が順調に進んでおります。内容も充実しております。乞うご期待。

編集後記

先日の総選挙において、1955年以降で初の本格的な政権交代が行われ民主党政権が誕生しました。鳩山新内閣のもと大きく政治が変わろうとしています。「姉歯事件」から4年が経ち、建築基準法・建築士法の改正をはじめ新たな関連法令も生まれ、官主導の大改革が推し進められました。その結果、様々な弊害も生まれています。今回の政権交代というチャンスを生かし、現在の我々のためになく、建築を目指す若者に希望を与える制度の再編を期待します。

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。